

専門学校 久留米リハビリテーション学院 授業評価 —令和2年度の結果—

本学院では、授業の質の向上を念頭におき、「学生の授業満足度の把握と教員の研鑽」を目的として、専任教員の担当科目を対象に平成18年度より授業評価を開始、平成20年度より本格的にアンケート結果の分析を進めてきた。これを実施することにより、各教員が担当している科目の授業内容を振り返り、次期あるいは次年度に活用することで授業の質の向上を目指した。しかし、授業アンケートを進めていく中で、このアンケート結果を個々教員の授業改善だけでなく全教員がある一定の教授力を持てるように活用することで教育の質の担保ができないかと考え、平成23年度に授業アンケートのリニューアルを実施し、久留米リハビリテーション学院の授業における教員の取り組みや学生の満足度を広く公開することとした。

【学生による授業評価】

1. 評価項目

授業評価項目は、授業に関する一般事項と本学院の特徴である e-school に関する事項とした平成22年度までの授業アンケートとおおよそ同様の項目を大項目とした。細項目については、一部の文言を修正、各大項目における項目数の見直しを行った。大項目および細項目については、以下に示す。

(1) 授業構成

- ① シラバスの教育目標は明確に提示していた。
- ② シラバスの教育目標は達成された。
- ③ 授業内容を理解するにあたり適切に教科書及び講義資料の提示が行われた。
- ④ 授業内容を理解するにあたり適切な時間配分をもって行われた。

(2) 教員の授業の進め方

- ① 話し方は、明瞭で聞き取りやすかった。
- ② 重要なポイントを明確に示し、理解度を深めるための配慮を行っていた。

(3) 教員の伝え方

- ① 適切な授業環境を保つことに努め、効果的に学生の参加(発言等)を促した。
- ② 適切な助言を与えてくれた。
- ③ 実習や国家試験に活かせる知識・技術を習得することができた。

(4) 教員の関わり方

- ① 授業に対する熱意を感じた。

(5) 学生の授業へのモチベーション

- ① 授業中は、集中して教員の話や説明を聞いた。
- ② 教科書などを利用し、予習や復習など積極的に学習に取り組んだ。

(6) オンライン授業の満足度

- ① オンライン講義の内容(説明、進行速度など)に満足している。

2. 評価の方法および集計方法

平成22年度までの授業アンケートにおいては、上記の評価項目に対し「強くそう思う」「そう思う」

「そう思わない」「強くそう思わない」の4つの選択肢のうち該当するもの一つを選択してもらい、どの選択肢にも該当しない項目については「無回答」とした。しかし、平成23年度より選択肢を見直し、更に今年度より「強くそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」「まったく思わない」の5つの選択肢に変更した。また、「無回答」は、回答対象者のうちアンケート実施日に欠席した学生数とした。また、感想・意見・希望などについては、前回のアンケートより変更せず自由に記載してもらった。

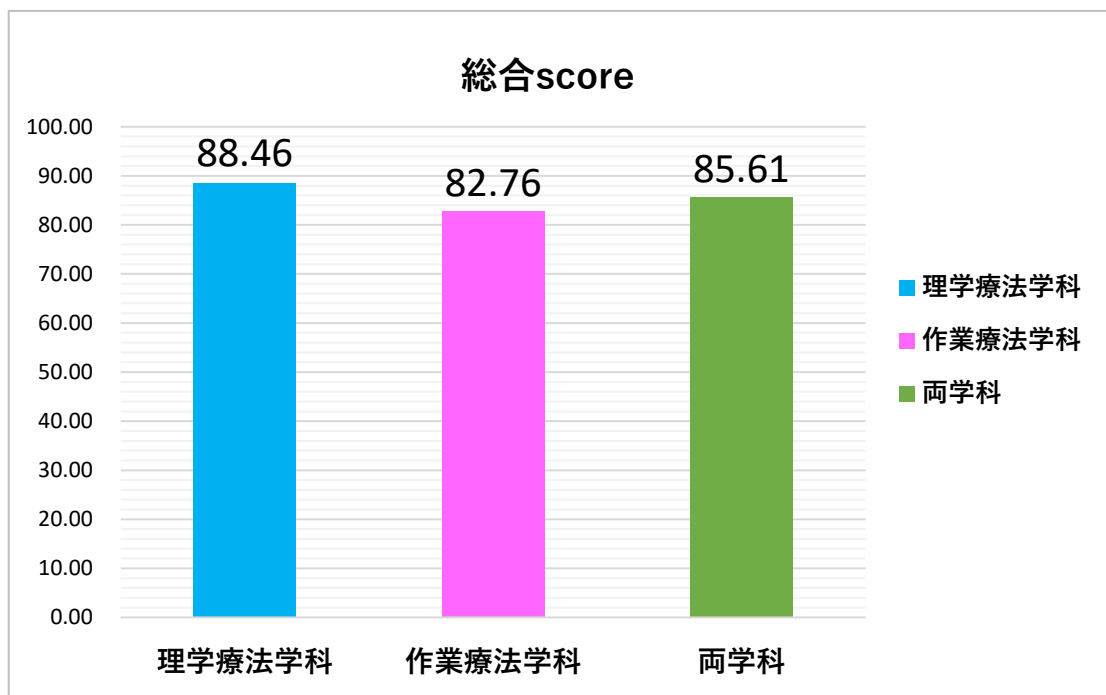
集計方法については、各選択肢を以下のように点数化し、各項目についてすべてが「強くそう思う」だった場合を満点として100点満点換算し、その割合を大項目ごとにグラフ化した。

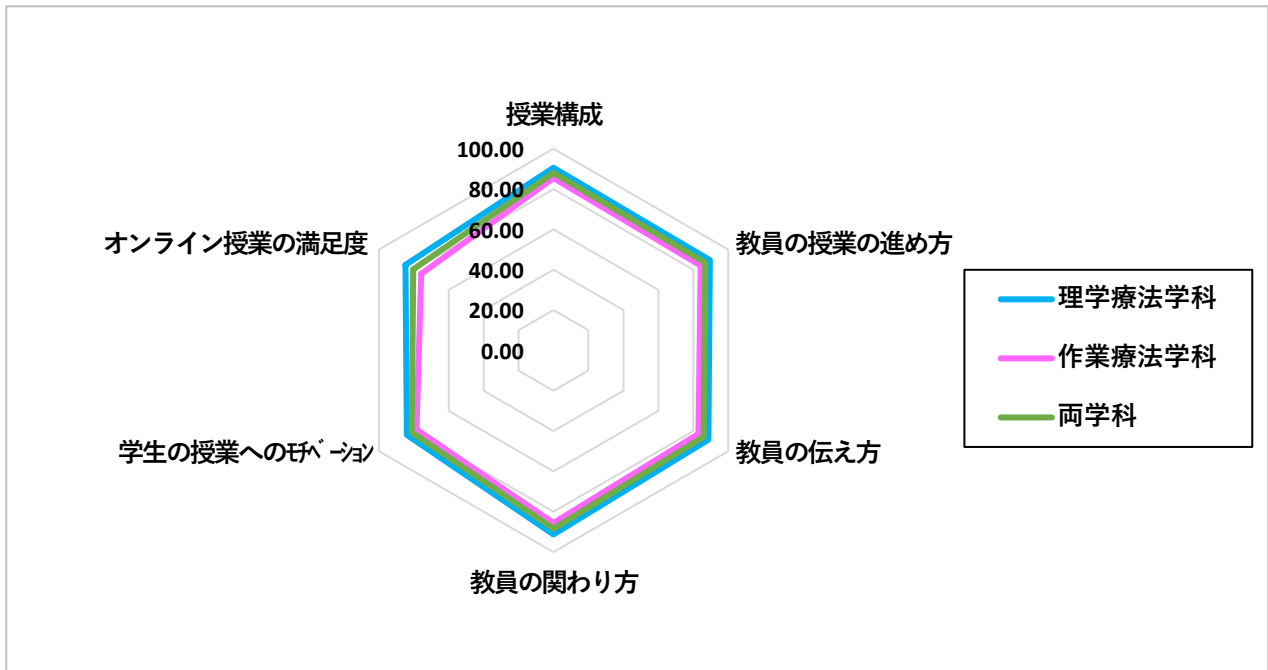
- 「強くそう思う」 : 5点
- 「そう思う」 : 4点
- 「どちらとも言えない」 : 3点
- 「そう思わない」 : 2点
- 「まったく思わない」 : 1点
- 「無回答」 : 0点

3. 結果

集計結果については、以下のような結果となった。

	理学療法学科	作業療法学科	両学科
授業構成	90.55	85.46	88.01
教員の授業の進め方	89.48	84.22	86.85
教員の伝え方	88.70	82.92	85.81
教員の関わり方	91.25	85.57	88.41
学生の授業へのモチベーション	83.93	78.48	81.21
オンライン授業の満足度	84.79	75.74	80.27
総合 score	88.46	82.76	85.61





	理学療法学科			作業療法学科			両学科		
	H30	R1	R2	H30	R1	R2	H30	R1	R2
授業構成 ※新評価項目			90.55			85.46			88.01
教員の授業の進め方	87.01	86.34	89.48	88.58	87.54	84.22	87.80	86.94	86.85
教員の伝え方	85.76	85.63	88.70	89.71	88.53	82.92	87.74	87.08	85.81
教員の関わり方	88.66	88.83	91.25	90.44	88.83	85.57	89.55	88.83	88.41
学生の授業へのモチベーション	87.01	86.40	83.93	89.09	87.98	78.48	88.05	87.19	81.21
オンライン授業の満足度 ※前期のみ実施			84.79			75.74			80.27
総合scora	87.17	87.04	88.46	89.15	88.18	82.76	88.17	87.61	85.61

(学生による自由記載欄のコメント)

科目	代表的なコメント
運動系統学 (PT・OT)	質問したら丁寧に納得がいくまで説明してもらえたのでとても良かった。グループワークが多くて分からないところを共有できて理解が深まってよかった。先生の元気な声に自分も頑張ろうと思えた。確認する時間もあったため、班の人とたくさん確認して基本授業中に理解することができた。
臓器系統学 (PT・OT)	どこが大事なのが分かりやすく、復習がしやすかった。理解もつながる授業だった。聞き取りやすく内容もスムーズに入ってきた。授業の合間にグループでの確認の時間があったのでそこでアウトプットなどできたので良かった。
神経系統学 (PT・OT)	説明の例え方がわかりやすい。以前習った所などが、後の授業でどんどんつながっていく感じがして分かりやすく面白かった。生徒の反応を見て理解できてなさそうだったり難しそうだったりしたときはもう一度わかりやすく資料を作ってくださいたり説明を加えてくださったりしてとてもありがたかった。授業の進め方も途中で話し合う時間や休憩の時間を入れられていて集中しやすくてとてもいい授業だった。スライドが見やすく、復習するときにもとても役立ちました。勉

	強の仕方の工夫や分かりやすい説明で知識につなげることができた。
リハビリテーション概論 (PT・OT)	すぐに質問し、リアルタイムで答えてくれる環境がよかった。授業に関する資料がスライドにまとめられていて分かりやすかった。先生の説明でしっかり補足できたので理解できた。実習時の話も聞けて2年後3年後のイメージができた。スライドを使って分かりやすくまとめてあり、理解しやすかった。実際の話を変えて説明していただき現実的で分かりやすかった。
基礎作業学演習 (OT)	動画配信や資料配布があったので分かりやすかった。演習の際に分かりやすく実践して下さったため理解が深まった。実技練習中に事細かな助言を与えて下さったので円滑に学ぶことができた。実技練習では間違えて練習しているところを適切に修正してもらえた。
精神医学 (OT)	凄く分かりやすいし生徒の事にも真摯だった。実際の症例を交えた説明により理解がはかどった。覚えることが多く、最初は不安でしたが先生がわかりやすく説明して下さったり、後からまたつなげて話して下さったので復習しながら授業に取り組めた。つながった時に勉強の楽しさを改めて感じた。具体例を出して下さってイメージがしやすいように話してくれて覚えやすかった。
神経障害理学療法学 (PT)	オンラインでも直接の授業でもとても聞きやすく、質問した時も熱心に教えて下さって嬉しかった。大事どころが明確で声も大きく聞き取りやすかった。
理学療法評価学 (PT)	前期はオンライン授業で先生方も大変だったと思いますがとても分かりやすかった。話すテンポがよく、聞き取りやすかった。声が大きくてとても聞きやすく、例などもわかりやすかった。

授業評価総評

例年、久留米リハビリテーション学院では「授業評価」を実施しています。

令和元年度の授業評価との比較を行いました。なお、今年度より新たな評価項目として「授業構成」を設けました。又、今年度前期4月5月はオンライン授業を実施しましたので、「オンライン授業の満足度」の評価を行いました。授業評価の詳細は昨年度のパナーを参照してください。

先ず理学療法学科ですが、令和元年度の総合評価が87.04ポイント、令和2年度の総合評価は88.46ポイントでした。詳細を見ていくと「授業の進め方」では3.14ポイント、「教員の伝え方」では3.07ポイント、「教員の関わり方」では2.42ポイント上がりましたが、「学生の授業へのモチベーション」では2.47ポイント昨年を下回りました。再度今までの講義を振り返り、と同時に当学院の強みでもあるIT教材を用いた講義を来年度は更にパワーアップさせ、学生の学習意欲の向上を図ります。

次に作業療法学科ですが、令和元年度の総合評価が88.18ポイント、令和2年度の総合評価が82.76ポイントでした。詳細を見ていくと「授業の進め方」では3.32ポイント、「教員の伝え方」では5.61

ポイント、「教員の関わり方」では3.26ポイント、「学生の授業へのモチベーション」では9.50ポイントと、すべての項目が昨年度を下回りました。この数字を真摯に受け止め、両学科ともに改善を図る必要があります。

近年、学生の成績向上のために、居残り学習や早期からのグループ学習の導入など様々な取り組みを行っておりますが、やはり学習の原点は「予習をし、講義をしっかりと聞き、復習をすること」だと考えております。そのためにも、学生がいかに興味を持って講義に臨むかが重要であり、学生の自主性を導き出すよう講義を展開させていく必要性を感じております。

当学院では前・後期終了ごとに授業評価を行い、それに対する振り返りや改善への取り組みを行っています。

今回の結果を踏まえ、各教員には「講義実施に関する課題とその対応」を認識してもらい、より良い講義となるように次年度以降の講義に取り組んでもらいます。

令和3年2月吉日

専門学校 久留米リハビリテーション学院

教務部長 大坪 健一